

戦後日本における身体の表象 「解放」の出発点と現在

本研究会では終戦直後から現在における日本の身体文化・表象に関して、それぞれ身体の「解放」をキーワードに研究発表する。具体的には、映画研究の立場から占領期のスポーツと民主主義教育の結びつきについて、純潔教育の文脈から当時の1950年代の映画考察、1960年代以降の暗黒舞踏の振付手法に着目した身体の「解放」の考察、そして、ダンスホールやクラブ等の身体を通じた社交の場における規制と「解放」の流れを発表者4名がそれぞれ報告する。そして、それらの発表を通じて明文化されている/いない規範がいかに生み出され、日本で身体の「自由さ」がどのように規定されてきたのかを捉えつつ、社会—身体—表象の結びつきを多角的に考える。

日時 2023年3月24日(金) 17:00-20:00

場所 神戸映画資料館 (対面・事前申し込み不要・参加費無料)

セクション1「終戦、「自由」な身体の始まり」 17:00-18:10

発表者: 大谷晋平 (映画研究・神戸大学国際文化学研究科学術研究員)

松元実環 (ジェンダー史・神戸大学国際文化学研究科博士後期課程)

コメンテーター: 友田義行 (甲南大学文学部准教授)

セクション2「身体は「自由」であったのか」 18:20-19:30

発表者: 岡元ひかる (ダンス研究・武庫川女子大学生生活美学研究所嘱託研究員)

黄柏瀧 (社会学、カルスタ・神戸大学国際文化学研究科学術研究員)

コメンテーター: 吉田駿太郎 (日本学術振興会特別研究員(PD))

ディスカッション 19:30-20:00

コメンテーター略歴

友田義行

甲南大学文学部日本語日本文学科・准教授。
専門は日本近現代文学、映画研究。
主な研究業績として、単著『戦後前衛映画と文学—安部公房×勅使河原宏』(人文書院、2012)、編著『フィルムメーカーズ22 勅使河原宏』(宮帯出版社、2021) 他。

吉田駿太郎

日本学術振興会特別研究員 (PD) / 早稲田大学スポーツ科学学術院。専門は舞踊学、パフォーマンス・スタディーズ。主な業績として Shuntaro Yoshida, Natsumi Fukasawa. "How Artificial Intelligence Can Shape Choreography: The Significance of Techno-Performance", *Performance Paradigm, Vol.17*, pp.67-86, December 2022. 吉田駿太郎「コンテンポラリーダンスにおける日本のメセナ活動—『振付家の時代』と振付家の社会的な役割を中心に—」、公益社団法人企業メセナ協議会メセナアソシエイトレポート(7)、pp.1-24、2021年6月他。

共催: 神戸大学国際文化学研究科研究推進インスティテュート研究プロジェクト4

問い合わせ: 大谷 晋平 (otani_s@yahoo.co.jp)